

嗣ぐ、康、傍國を率ゐて、尙ほ匈奴を拒む。建武五年(二十九年)建功懷德王に封せらる。同九年康死し、宣成と諡す。弟賢嗣ぎ、拘彌(今の克雅の地)西夜(今のシエ)の兩國を攻め破り、兄康の二子を立て、拘彌、西夜の王とせり。同十七年(四十年)賢都護の位を請ふ。漢一たび之を與へしも、其の早計を悔い、使に迫りて都護の印綬を奪ひ、更に大將軍の印綬を與ふ。賢恨みて大將軍の印綬を帶びず。自ら大都護と稱し、書を諸國に移す。近隣の諸國恐れて服屬せざる者なし、賢其の十八國の子を漢に入侍せしめ、再び都護たらんことを請ふ。漢許さず。同二十二年(四十六年)賢、鄯善を攻め、其王安を走らし、次で龜茲王を滅して國を併す。又媯塞王を滅して、龜茲の人駟韃を彼の國王と爲し、龜茲を割きて烏壘國(今の拜城)を設け、前龜茲王の子則羅を立て、龜茲王に、駟韃を移して烏壘王に、且つ龜茲人某を媯塞王に封す。後ち、則羅、駟韃俱に龜茲國人某の爲めに殺され、從て龜茲、匈奴に屬せり。時に大宛貢税を減す。賢、擊て其王延留を捕へ、拘彌王橋塞提を大宛王と爲せしが、康居(今の塔爾哈臺)の攻むる所と爲りて、橋塞提逃れ歸る。賢、復た橋塞提を拘彌王とし、更に延留を大宛に還す。又于闐王俞林を徙して驪歸王とし、其の弟位侍を于闐王と爲す。後、賢、于闐王廣德の爲めに欺か